

# 多職種連携推進研修部会の第1回研修会が開催されました



2019年9月27日

## 第1回多職種連携研修会

さる9月27日上越医師会館にて第1回多職種連携研修会を開催しました。

参加者は、医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、相談員、リハビリ職、介護支援専門員、介護員、福祉用具専門相談員等32名、在宅医療推進センター2名、部会委員3名、事務局5名の計42名です。

多職種連携研修会は「その人らしさ・持ち味・生活力を、関わる多職種で共有し、その人が本来持つ力を引き出し、在宅での生活を継続していくために、多職種連携のツールとして地域連携連絡票を活用することができる」を目標に、年3回開催します。参加者の皆さんから、各職能団体や職場で地域連携連絡票の活用をすすめていくリーダーとなっていただくため、各職種の視点で意見交換を行い、効果的な活用方法について検討していきます。

### ○第1回研修会内容

【テーマ】地域連携連絡票・MCネットについて学ぶ

第1回研修会では、地域連携連絡票がどのような情報から構成されているのかを改めて確認しました。

また、ICT連携部会と連携し、リアルタイムで情報共有や意見交換ができるMCネットについて、ICT連携部会の横田部会長より紹介いただきました。

グループワークでは、地域連携連絡票のどこに着目するかや、どのように情報が記載されているとより分かりやすいか等について話し合い、以下の意見がでました。

### ～ グループワークから ～

- 職種により着目する視点は異なっていたが、最終的にはどの職種でも全体像を把握していた。
- 家族の状況の面で、キーパーソンの記載があると良い。
- 口腔ケアの面で、嚥下能力や義歯の有無、内服管理状況などの情報の記載があると良い。
- 情報量が多く作成は大変であるが、新規介入時や退院前カンファレンス、サービス担当者会議などの時には、とても役立つ資料と感じている。
- 情報量が多いことで分かりにくくなる部分もある。十分なアセスメントをした上で、必要な情報を優先順位をつけてのせることも必要ではないか。
- 地域連携連絡票はその人が目標とする生活を実現するために活用するもの。

### ○第2回研修会内容

10月18日(金) 19時から20時30分  
上越市市民プラザ 第2会議室

第2回は、「退院時カンファレンスについて学ぶ」をテーマに、地域連携連絡票を用いた模擬カンファレンスを行います。